



学校教育目標 ◎かしこく ◎なかよく ◎たくましく ◎心ゆたかに



たくわえた力

校長 佐藤 信孝

本校は素敵な学校です。季節ごとに花がどこかしこで咲いています。春は満開の桜が校庭を囲むように咲き、夏は雨の中で艶やかな紫陽花、その時期を過ぎると向日葵が太陽に向かい顔を思いっきり上げて咲き誇ります。秋は、並木道のように並んだ金木犀が芳醇な香りで和ませます。冬であっても正門付近では、水仙が白い花を咲かせ、2月は赤と白の梅の花が子どもたちを迎えてくれました。

今、校庭を見渡すと緑や色鮮やかな花は見当たりません。芝川沿いにある本校は、校門側から見ると気持ちよく広がって、川向にもあまり高い建物が無いせいか、とても開放感があります。でもその分、冬はどこか寂しさも感じさせます。校庭を歩いていると寒椿の花がひっそりと赤い花をつけているのを見つけることができました。寒さの中でこそ咲き誇る花もあると、改めて自然の奥深さ、多様さを感じます。

校庭の泰平中側に並んでいる桜の木に目を移すと、枝の先端のつぼみが膨らんできています。桜の木は11月頃に葉を落としました。冬の寒さや乾燥から身を守り、最小限のエネルギーで水分不足で枯れるのを自ら防ぎながら、春を待っていた桜の木々たち。その変化は、目立たないものですが、確かに芽吹きを感じるすることができます。

子どもたちの成長も同じようなことがあるかもしれません。久しぶりに会った親戚のおじさんが「ずいぶん、大きくなったね」と子どもたちに声をかけるように、普段、近くで見ていると変化に気付かないことがあります。また、外側からは変化も見られない冬の桜の木々のように、がんばりや成長を感じられない時もあります。しかし、子どもたちは着実にさまざまな力をその体に蓄えています。その変化に、力に着目し、成長を評価してあげたい、進級・進学はその力を発揮する舞台となってほしいと願います。また、そんながんばり自体を認めてあげたいと思います。

この1年、子どもたちにとってはどんな1年だったのでしょうか。できれば、すべての泰平小学校の子どもたちにとって、喜びと成長が実感できる、そんな1年であってほしいと願います。中には、つらいことや苦しいことが印象に残ってしまった子もいるかもしれません。「冬来春至」という言葉があります。冬もくれば、やがて春が来る、そこから転じて苦しいこともいつかは過ぎていくという意味でしょうか。しかし、この1年をつらかった、苦しかったと感じている子にこそ、桜の木々のように、きっとその子なりの力の蓄えや成長があったと思います。残り、1か月。それぞれの学年で、クラスで、この1年の成長を実感できるよう、支援してまいります。

他校の校長先生から「桜守（さくらもり）」という方の存在を教えてくださいました。桜守はデリケートな桜の木を、一年を通して手入れや保護をして、その寿命を延ばす役割の職人だそうです。学校だよりの中で、地域の皆様、保護者の皆様は、子どもたちの成長を助ける、学校の「桜守」と述べていました。泰平小の桜守の皆様。今年度も泰平小の子どもたちの成長を支えていただき、誠にありがとうございます。子どもたちの成長のため、これからも力を合わせてまいりましょう。どうぞよろしく願います。

*

地域の皆様のおかげで、大きな事故なく来ています。年度末で世間も、子どもたちも慌ただしくなりがちです。どうぞ、引き続きの見守り活動へのご協力をよろしく願います。